

まえがき

滋賀県農政水産部

部長 高橋 滝治郎

滋賀県は、琵琶湖を中央に擁し、四方を鈴鹿や比良などの山々に囲まれており、温和な気候と豊かな土壌にも恵まれ、水田開発が進みました。本県の農地全体に水田が占める割合は、全国2位の約92%（平成28年）であり、近江米の産地として水田農業が盛んに行われています。

農業者の皆さんは、米を安定的に生産するため、水田農業に必要不可欠である用水を確保することに力を注ぎ、水源開発を進めてきました。その水源開発の歴史は古く、稲作伝来（弥生時代）にまでさかのぼり、新たな水路や井戸、ため池の開発、隣村との水争い、近代以降ではダム開発や内湖開拓、ほ場整備や琵琶湖からの揚水かんがいなど、時代に応じて開発を進め、循環利用等により琵琶湖と共生する自然環境を育んできました。現代の農業水利システムは、連綿と続く農村の歴史や文化の変遷を経て、築き上げられたものであり、本県の農業と農村を支える大切な資産となっています。

この度、先人の知恵や苦勞の賜物である現代の農業水利システムが、どのような歴史をたどって現在の姿となったのか、生活文化等との関わりも含めて再確認し、次世代へと引き継いでいくために、本冊子を作成しました。本冊子をより多くの方に手にとっていただき、本県の優良な農業水利システムの理解を深め、次の世代への継承に御活用いただければ幸いです。